

河川工事中の要望対応及び課題解決 若手監督員の取り組み

1. はじめに

東京都第三建設事務所では、神田川、善福寺川、妙正寺川の護岸改修工事及び調節池の整備を進めているが、護岸改修工事における仕上げの段階となる河川管理用通路の整備は、地域住民や河川管理者である区から工事に対して要望を受ける機会が多い。

本報告では、善福寺川における河川管理用通路整備工事を進めていく中で出た住民や区からの要望や、現場における課題に対し、工事を円滑に進めていくためにどのように取り組み、解決に至ったかの経緯について、若手監督員の視点で報告する。

2. 善福寺川について

善福寺川は、杉並区の善福寺池に源を発し、同区内を蛇行しながら都立善福寺川緑地及び和田堀公園内を流れ、中野区との区境で神田川に合流する延長 10.5km の一級河川である (図-1)。



図-1 善福寺川流域図

3. 善福寺川管理用通路整備工事について

3. 1 工事概要

本報告の対象となるのは、善福寺川の済美橋～二枚橋の間の河川管理用通路整備工事である。この区間においては、従前の工事で護岸のみ完了しており、本工事では、従前の工事で使用した河川上の作業構台を撤去し、資材置き場として使用していた隣接する公園の復旧と左右岸の河川管理用通路の整備を行った (図-2)。当該区間は、護岸工事完了後、隣接する上流側の工事用搬入路として使用していたため、約3年間作業構台が設置されていた状態となっており、近隣の住民の方には長期間迷惑を掛けている状態となっていた。

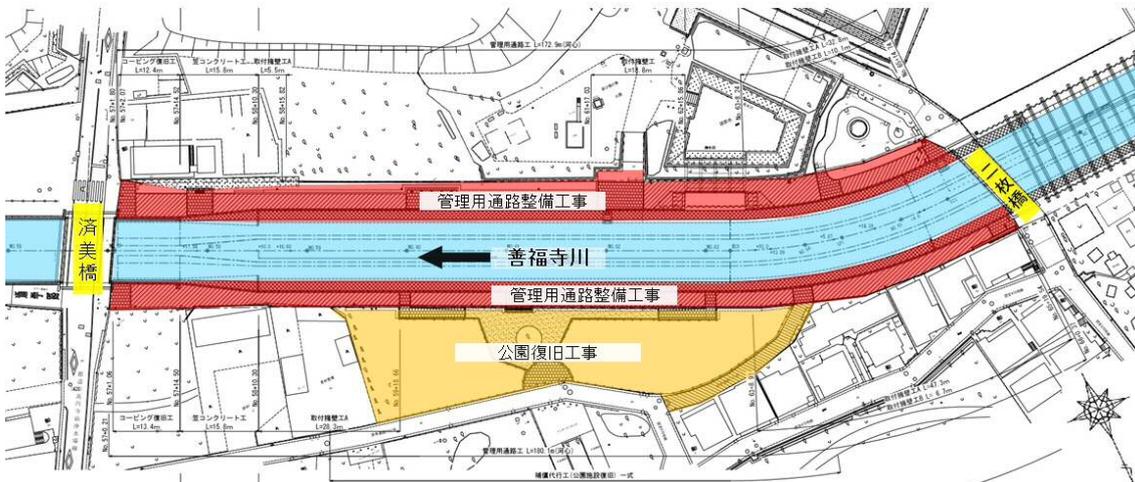


図-2 善福寺川管理用通路工事 平面図

3. 2 工事における諸課題と対応

3. 2. 1 護岸のさび

本工事を進めていくにあたり、様々な課題に直面した。その一つが、護岸に付着した鋼材のさびである。前述のとおり、護岸工事後、作業構台が長期間設置されていたため、雨等により水が垂れて護岸の表面に茶色いさびが付着してしまっていた。そのため、地域住民の方々や区より景観上良くない旨の意見が出た。

そこで私は、課内及び受注者と検討の上、石材の洗浄剤を使用してみることにした。石材の洗浄剤と言っても様々な種類があるため、受注者へヒアリングを行い、本ケースに合うような3種類の洗浄剤を選定・比較検討し、最良のものを使用することとした（写真-1）。その結果、洗浄前後で護岸が見違えるように綺麗になり、近隣住民の方からも感謝の言葉を頂いた（写真-2）。

3. 2. 2 隣接住民への対応

本工事現場は、近くに住宅が隣接しているため、工事を行う中で住民の方からの要望対応も行った。その一つが、隣接する住宅の宅地内に生えている樹木の処理である。この樹木は、河川管理用通路内に伸びてきていたため、越境部分の処理を行う必要があった。しかし、住民の方から当該樹木を全て処理して欲しいとの強い要望があり、対応をしないままでは、工事の進捗にも影響が及ぶ懸念があった。そこで、工事監督員として迷いや葛藤があったが、課内及び受注者と相談の上、当該樹木を全て処理することとした（写真-3）。これより、工事監督業務を行う上での住民の方とのコミュニケーションの重要性を感じた。

3. 2. 3 区への引継ぎ

工事完了後は、当該区間の管理を引継ぐため、区の職員と現地確認を行った（写真-4）。現地確認においては、インターロッキングブロックと擁壁の隙間や転落防止柵の格子の間隔、通路におけるわずかな段差など、自分では問題が無いと思っていた箇所においても多々指摘があり、修正を行った。これより、出来上がったものを管理する視点や使用者の視点に立って考えることの重要性を痛感した。

4. 終わりに

本工事の現場監督業務は、私にとって初めての工事現場監督業務となった。そのため、工事を進めていく中で対応に苦慮する場面も多々あったが、課内の各担当との協力や関係機関との協議・調整、地域住民の方とのコミュニケーション等、様々な経験を積むことができた。この経験を今後の職務にも積極的に生かしていきたいと思っている。



写真-1 石材洗浄剤比較状況



写真-2 護岸洗浄前後比較状況



写真-3 樹木処理状況



写真-4 区職員との現地確認